



のびるほどっ子!

ほっとな未来へ 3C!

令和6年1月10日
横浜市立保土ヶ谷小学校
学校長 宮生 和郎

自由な発想で自ら行動し、創造していく年に

～先人、歴史から学び、人と関わりながら自分を磨く～ 校長 宮生和郎

1月9日、体育館に響き渡る子どもたちの元気なあいさつとともに保土ヶ谷小学校の新年がスタートしました。昨年は、今まで経験したことがない暖かい日が続きましたが、この日はようやく真冬の冷え込みとなり気持ちが引き締まるスタートとなりました。保護者の皆様、地域の皆様を始め学校を支えてくださっている皆様には、昨年中、子どもたちが安心して豊かな学校生活を送ることができるよう様々な場面でお世話になりましたことを改めて感謝申し上げます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

今年のお正月ほど衝撃的な出来事が続いた年はないのではないかと思います。元日に能登半島で起きた大地震、2日の航空機の衝突事故は日本全体を揺るがし、改めて人知を遥かに超えた大自然の脅威と突然日常を奪われる事故の恐ろしさを感じさせられました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、突然身近な人を亡くされた方々、避難を余儀なくされている方々に心よりお見舞い申し上げます。報道でご自身が被災しながらも避難所で支援活動をしている方の「立ち止まっているわけにはいかない。何年かかっても必ず復興させる。」という言葉に拝聴し、被災した方々がどんなに勇気づけられるか、また私たちの日常を見つめ直す機会をいただいているのではないかと感じさせられました。

さて、今年の干支「辰（竜）」は十二支の中で唯一想像上の生き物です。起源は中国で、諸説によると「竜」は身近に存在する生き物と信じられていたところがある一方で、大きな力をもって戦禍を収め大きな国を支配する理想的な君主の象徴ともなっていたようです。また、「天候など自



【高松塚古墳壁画の青龍】



【京都大徳時の天井画】

然を支配する巨大な力をもつ」とされており「竜巻」の語源にもなっています。確かに大きな竜巻は、雲から垂れ下がり大蛇のようにうねりながら地上のものを吸い上げてしまうように見えるので、大きな力をもつ象徴としての「竜」の姿のイメージにつながったのかもしれませんが。日本の起源は高松塚古墳の青龍で、のちに多くの寺院の彫刻や屏風、襖絵や天井に時代背景をもとに画家の発想が加えられて描かれていきます。

おとぎ話や映画の中にも数多く「竜」は登場し、神の化身となって人間と想像上の世界との橋渡しとなったり、ときにはまちを破壊する怪獣となったりと人の想像力を掻き立てる存在でもあるように思います。改めて人の想像力は自由で大きな力の源になると感じます。辰年の今年はずいぶん想像力の翼を広げ、自分にとって大切なものを創造していく年にしてほしいと思います。